

住民活動

①

地域の協力で子どもたちに 体験プログラムを実践中

静岡・富士市 伝法子どもと遊ぶ会





二〇〇二年に小学校も毎週土曜日が休日になり、子どもたちの休日の過ごし方が大切になる。静岡県富士市の「伝法子どもと遊ぶ会」（代表・須田敦子さん）は、週休二日制に備えて地域の育成力を高めようと、子どもたちにさまざまな体験ができるプログラムを作って、地域の協力を得ながら実践している。

一二月二五日、同遊ぶ会主催の「書き初め会」が伝法小学校の体育館で行われた。書き初め会には三年生以上の小学生約一三〇人も参加があった。隣の校区から参加した子どもたちもいた。講師は市内で書道塾を開いている講師ら一人が務めてくれた。

三年生は「いきる力」、四年生は「大きな心」と、子どもたちはお手本を見ながら大きく伸び伸びと書きあげた。

一月一三日には、富士市立伝法公民館で手品遊びの教室「みんなで手品師」を開いた。講師はマジシャンメンバーズ富士で活躍する地元に住む渡部宏美さんが快く引き受けてくれた。渡部さんの指導のもとに約三〇人の子どもたちがハンカチや新聞紙、ロープなどを使った手品に挑戦した。

渡部さんがお手本を示し、何回も繰り



返し、繰り返し手順を教える。遊ぶ会のメンバーも手分けして教えて回る。子どもたちは何回もチャレンジし、ついに成功。会場のあちこちから「できたー」の声があがる。覚えた手品を早速みんなの前で実演、ちびっこマジシャンの誕生である。

渡部さんのマジックショーも行われ、子どもたちはトリックを見破ろうと真剣な表情で渡部さんの手元に見入っていた。

「伝法子どもと遊ぶ会」は、平成五年に本の読み聞かせや、おはなし会などの本を通じた育成活動を始めた。その後、学校の休日が第二、第四土曜日と増え、子どもたちの休日の過ごし方が大切になり、遊び場や居場所が問題となった。

そこで会では活動の枠を広げ、休日にも子どもたちが安全で有意義に過ごせる「場」を用意しようと、地区の人たちや特技を持っている人たちに協力してもらい、楽しいプログラムを子どもたちに提供するようにした。

毎週の小学校での読み聞かせ、公民館での幼児から小学生を対象にしたおはなし会を中心に、料理、手話、工作、書き初めなどの教室の開催。自由参加のあそ



びの会、季節に合わせたクリスマス会や春のおまつり、七草採集の会なども行い、家族で参加する富士山登山やキャンプなども行っている。

子どもを一時的にせよ預かる以上、会ではとくに安全面に気を配り、参加者の期待を裏切らないプログラム作りに苦心している。

行事によっては他地区の小学生にも呼びかけ、親子で参加できるようにもしている。

行事の開催案内は、小学生には学校を通してチラシを配布してもらい、回覧板でのお知らせや、公民館にチラシを置いてもらっている。新聞でお知らせすることももある。このように小学校、地区、公民館の協力で支えられながら活動している。

須田さんは「本の読み聞かせや、おはなし会はこれからも続けていきたい。PTAや子供会といった既存の団体の枠にとられないで、ニーズにあわせて行事を地域の人たちに協力していただいて取り組んでいきたい」として「地域で子どもを育てる活動を市内に広げていきたい」と話す。

■連絡先 伝法子子ども遊ぶ会

TEL 四五〇―五三一七〇二七